

学校施設の複合化について

～京都御池中学校の事例紹介～

京都御池中学校の外観



1 学校複合化へのプロセス(1)

- * (1) きっかけは学校統合

- * ① 人口減少に伴う**小規模校化**の進行
- * → 適正規模化・適正配置

- * ② 都心部の**希少な土地**
- * → 有効活用の多角的検討

- * ③ 市の**厳しい財政状況**
- * → 財政支出の縮減

- * ④ **地域ニーズ**への対応
- * → 高齢化・子育て世代の減少への対応

1 学校複合化へのプロセス(2)

(2)モチベーションは**地元主導**(市民との協働・危機感の共有)

* ① 市民主導の学校統合

→ 京都御池中学校は、地元・保護者の論議・検討を経て提出された**「統合要望書」**に基づいて創設。

② 地域とともに創った学校

→**「校名」「校歌・校章」「標準服」「校舎設計コンセプト」**等について、地元・保護者・行政が論議・検討して決定。

明治2年創設の柳池中学校



1 学校複合化へのプロセス(3)

* (3) 施設設計コンセプトづくり

- * 新しい学校施設の建設に向けて、設計コンセプトを提案するためのワークショップを開催。

—施設コンセプト—

- * ①「ひとづくり・まちづくりの拠点施設」
- * ②「都心部活性化・御池シンボルロードのコンセプト実現」
- * ③「将来の人口増や少人数教育に対応した施設」
- * ④「体験や交流等を通じた幅広い学習機会」



* 【複合化へ】

- * ① 地域ニーズの高い公共施設(高齢者福祉・子育て支援)
- * ② 御池通の賑わいを創出する施設(商業施設)

1 学校複合化へのプロセス(4)

- * (4) 民間事業者との協働(PFI手法の導入)
- * ① 行政には経験のない複合施設の設計・建設
- * ② 学校では困難な複合ビルの維持管理
- * ③ 財政支出の縮減・平準化

2 複合施設のあらまし(1)

(1) 学校について

① 児童・生徒数 計1,061人

② 小学校6年生と、7・8・9年生(=中学生)がともに学ぶ
小中一貫校。

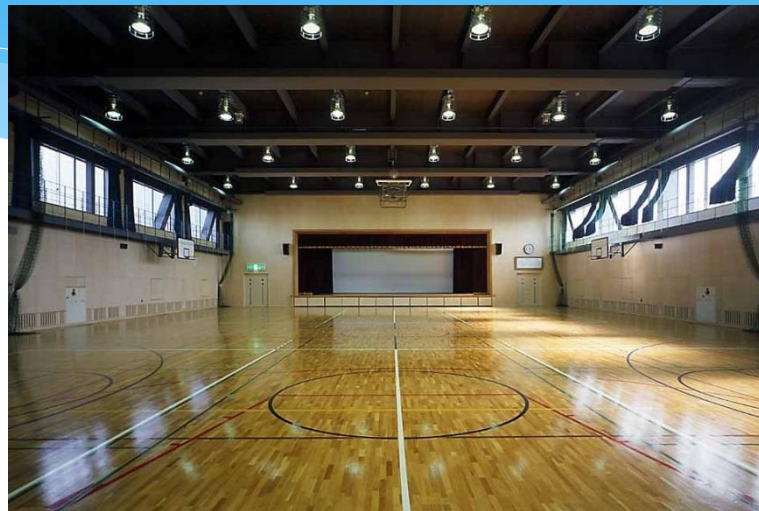
(※小学校1～5年生は、校区の御所南小・高倉小で学ぶ
「施設分離型5・4制」)

(中学生735人・小学校6年生326人 / 29年4月現在)

京都御池中学校



京都御池中学校

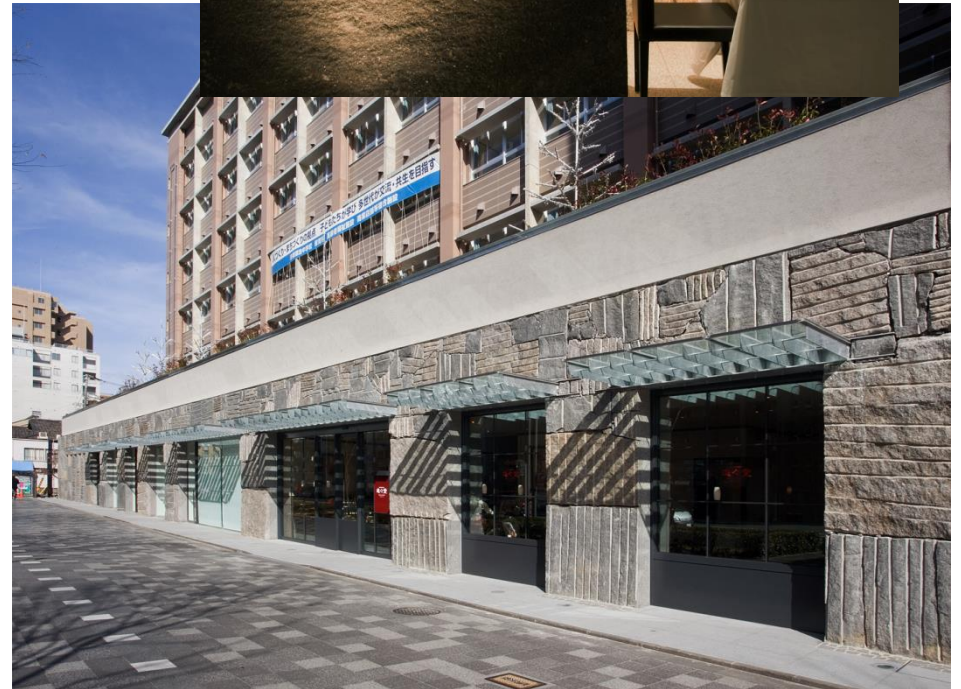
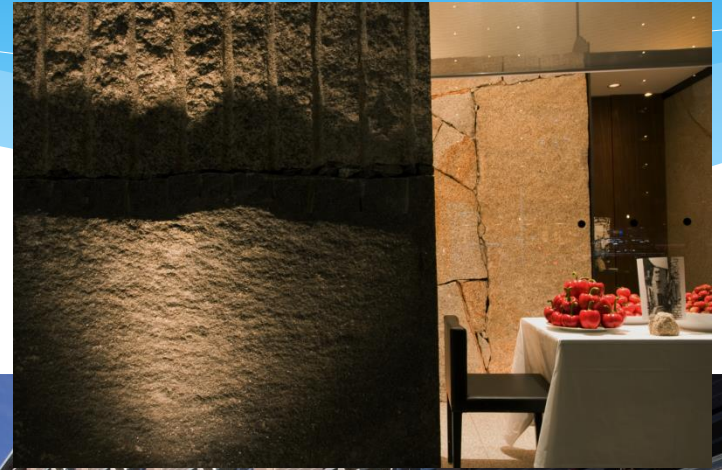


2 複合施設のあらまし(2)

(2) 複合施設について

- ① 保育所
- ② 高齢者福祉施設(デイサービスセンター)
- ③ 研修センター
- ④ **商業施設** イタリアン・レストラン「ストラータ」
ベーカリーショップ「駈々堂」
ジュエリーショップ「いまよ」
- ⑤ 防災備蓄倉庫
- ⑥ ビル管理会社

複合施設



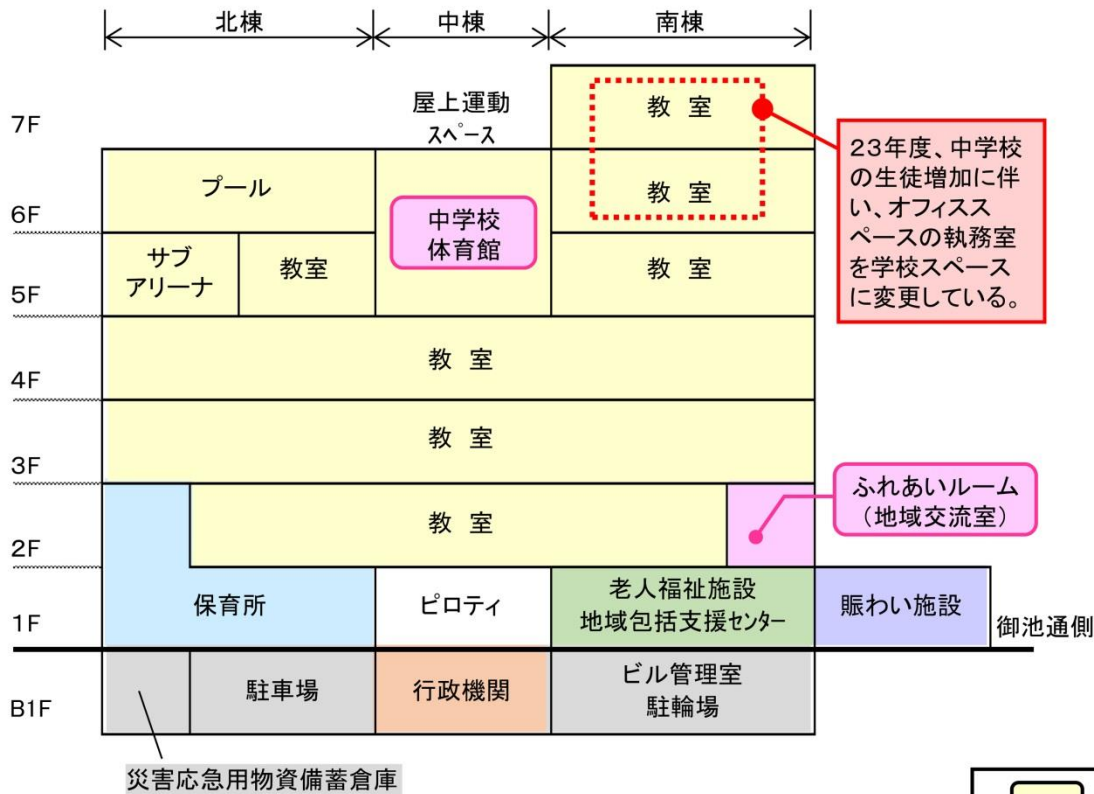
2 複合施設のあらまし(3)

(3) 施設規模・構造など

- * ① 敷地面積約8,000m²
- * ② 鉄筋コンクリート造
- * ③ 地上7階・地下1階(高さ30m)
- * ④ 延床面積約20,000m²

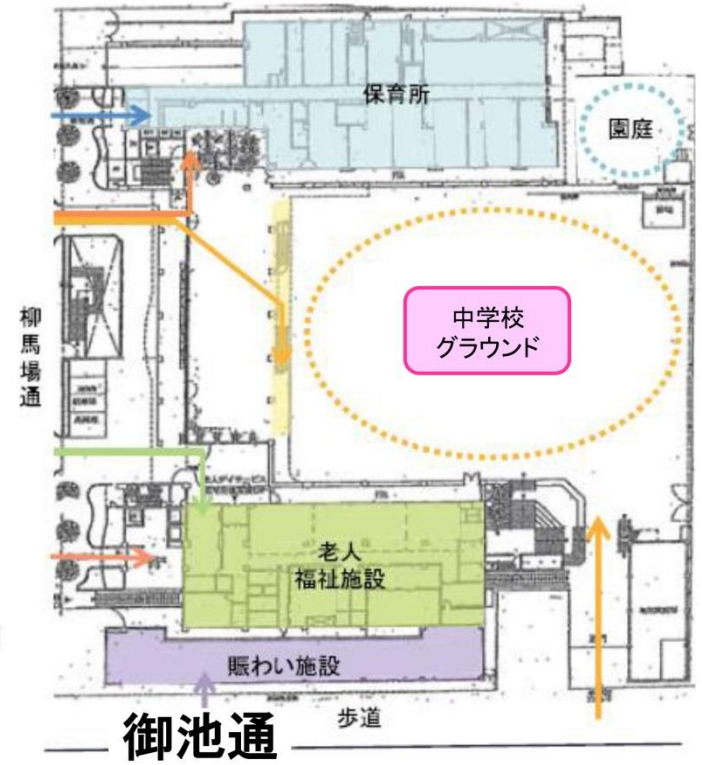
京都御池中学校施設配置図

<立面図>



23年度、中学校の生徒増加に伴い、オフィススペースの執務室を学校スペースに変更している。

<1階配置図>



2 複合施設のあらまし(4)

- * (4) 施設配置について
- * ① 運動場(2,700㎡)を囲む「コの字型」施設。
- * ② 各施設は、出入口・動線を明確に分けて配置。
- * ③ **保育所とデイサービスセンター**は運動場に面して配置。
(児童・生徒の体育授業や部活動等の様子を間近に見ることができる。)
- * ④ **商業施設**は道路側に面して配置。
(歩道にレストランの屋外テラス席を設けるなど、街路の賑わいの演出に貢献。)

3 事業の効果と課題

- * ① 従来方式と比べて施設整備・維持管理経費が**30%縮減**。
 - * <約90億円→63億円>
- * ② 設計から維持管理までの一括発注による**効率的な事業実施**。
- * ③ 複合施設の24時間管理体制・定期モニタリングを含む、**安心・効率的な維持管理**。
- * ④ 世代間交流や**賑わいの創出**，**小中一貫教育の実現**。
- * ↓
- * ① PFI手法の導入上の課題(公契約条例)。
- * ② 地域住民・保護者との合意形成。
- * ③ 一層の財政支出の縮減。

交流の様子

文化祭での中学生とお年寄りの交流



合同の避難訓練



体育祭での中学生と園児の交流